

僕は被爆二世です。でも、被爆した祖父から詳しく戦争のことについて聞いたことがなかったので、ぜんぜん知りませんでした。しかし、広島の平和式典体験学習でどんなにひどいことか知りました。

日本は唯一の原子爆弾を落とされた国です。原子爆弾は様々な被害を日本にもたらしました。熱風によるやけど、放射能による黒い雨。また建物は倒壊してしまい、壁は壊れ、鉄はぐにやぐにやになってしまふ。平和記念資料館を見学して、これは体を傷つけ、心も傷つける最悪なものだと思いました。

被爆七十周年の平和式典では、百一か国もの人々が参列していて、とてもびっくりしました。そして、平和式典に行く時、戦争反対などプラカードをもった人を見かけました。現在日本では戦争をしないという約束をやぶってしまいそうな気がします。僕は戦争はひどいことだと実感したので、戦争をやってほしくないと思心から強く思っています。



戦争を二度としてはならない。未来を担う私達に大人達は教えてきました。小学校三年生頃から国語の教科書には戦争の物語がのせられ、その悲しい物語の結末に小学生達は、「戦争は悲惨なもの。二度としてはならない。」と感じて来たはずです。私も、二度と繰り返してはならない惨劇を知っていたつもりでした。けれど、広島に行って私は戦争について本当に「知っているだけ」だったのだと思います。

広島に行って、一番心に残ったのは原爆資料館でした。原爆で亡くなった人の数々の遺品。とても心が痛くなりました。たくさん物の中でも、特にカラフルな紙で折られた小さな小さなつるが印象にのこりました。原爆による病で亡くなった禎子さんの折りづるです。彼女は千羽づるを折ると病気が治るといふ話を信じて必死につるを折り続けたのです。小さな折りづるに少しの希望をたくして、自分は死んでしまうのではないか。そんな絶望を押さえつけ、彼女が折ったつるのようにとても小さな希望にしがみつこうようにして生きる少女。その気持ちが痛いほど伝わってきて、なみだをこらえました。

もう一つとても印象深かったのは、被爆した人を再現した像でした。赤黒く不気味な背景に大人と子供、体も服もボロボロの状態で立っているのです。私はその時、自分の想像していたものがいかに生易しい想像であったかを悟りました。現状はもっとも辛く苦しかったのです。「戦争から目を背けてはならない。」そう言った私が戦争の現実から目を背けた瞬間でした。

この体験を通して、戦争の恐ろしさがより強く私の心に現れました。戦争をよく知らない私達には、戦争は遠い存在になりつつあります。なので、こうした学習事業はとてもいいと感じました。今回学んだことを生かし、私は、戦争について今一度理解を深めていきたいです。